

方が過ぎては害になります。

第二は幼児にさせることは良いことであつて、

かつ幼児相當のことであつても一時におほくの事をさせてはなりません、茲に毎朝起きがけに機嫌がわるくて、何時も床をはなれる時分になると泣きます、さて、やつと起きますと着物を着かへるは阿母さんでなければいや、顔を洗ふのは乳母でなければいやなど、人嫌ひをします。また食事になりますと途中で席をたちます、口に食物を含みながら、おしやべりして、こぼしちらします。斯様なことがあるとしませう。これ等はみなよくない事でございますから斯様な子供を持つた阿母さんはこれもかれも早く直したいとおもうでせう。尙外に出る時は両親だけでも挨拶させたいなど思うて此等の事を一時にしようといつとめたら、どうで

せう阿母さんはきつと失望します。其骨折は實に大へんなもので其上幼児は苦痛で結果が少うございます。これとちがつて若し一つ／＼してまゐりましたならば骨折は少なくて幼児は樂で、だん／＼といくせがつきます。諺に「急がばまはれ」といふことがありますが、ほんとしてございます。右のやうでございますから幼児をしつけるのは幼児は幼児らしくなる様にして氣永にしなければなりません。

買ふた子に髻なぶらるゝ暑さかな

子供服の裁縫

岡本ちか子

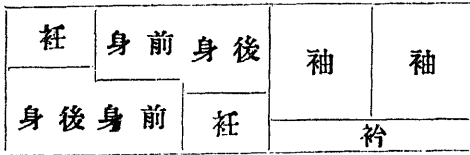
三ツ身單衣

三ツ身服は大抵二三歳より四歳位までの小兒の

着るものにして其用布は木綿幅一反にて二枚裁つ  
 を普通となす今左に其裁方積り方并に縫方につま  
 記さんとす。

幅九寸五分長さ一丈四尺の布を以て三つ身服の裁  
 方并に積り方

一、裁方の圖



一、裁切の寸法

- 袖丈 一尺四寸
- 袖幅 七寸
- 衿幅 二寸五分
- 身丈 二尺八寸
- 後幅 六寸二分五厘
- 衿幅 三寸二分五厘
- 衿肩 一寸五分
- 前幅 四寸七分五厘

一、積り方

右の裁方によりて見れば木綿幅を以て三つ身服  
 を裁つには袖丈の四倍と身丈の三倍との切入用  
 なること明なり是によりて左の如き法を知るこ  
 とを得

(イ) 袖丈と身丈とを知りて總尺を求むる法

$$\text{袖丈} \times 4 + \text{身丈} \times 3 = \text{總尺}$$

(ロ) 袖丈と總尺とを知りて身丈を求むる法

$$(\text{總尺} - \text{袖丈} \times 4) \div 3 = \text{身丈}$$

(ハ) 身丈と總尺とを知りて袖丈を求むる法

$$(\text{總尺} - \text{身丈} \times 3) \div 4 = \text{袖丈}$$

一、縫上寸法

- 袖丈 一尺三寸五分
- 袖口 四寸
- 袖付 四寸五分

袖幅 六寸五分

脇明 七寸

身幅 前後共イツバイ

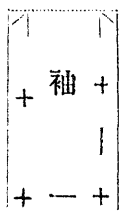
衿下 三寸

衿下 六寸五分

衿幅 イツバイ

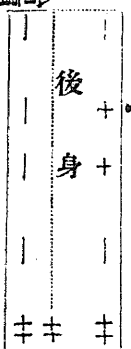
衿幅 一寸或は一寸一分

一、縫印付方

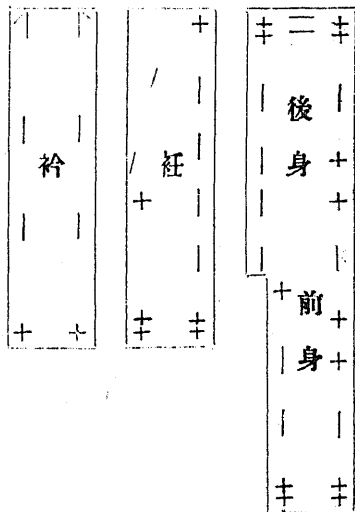


裁目を袖口となして向ふに置き耳を袖付となして手前に置き縫印をなす

図容



一、縫方順序并に縫方



袖、先づ表を見て縫代を成るべく淺く袖下を鑿ひ引返して裏を出し縫印の通りに袖下より袖口明の印まで縫ひ折をつけ(左袖は袖口を右に持ちて手前に返し右袖は向ふに返す)袂の角を留め次に袖口をほそく三分位の針目に三つ折縮となす。

身頃、第一脊を袋縫になし折目は衿肩を右に持

ちて手前に返し次に脇縫をなし前布の方に折を返し次に衿は衿下を三つ折衿になし置き之を身頃につけ次に裾を三分の幅に五分位の針目に三つ折衿になし次に衿をつけ衿先を縫ひ三つ衿を入れて之を衿け次に袖をつけ、ふり、身八つ等を二つ折衿になすなり。

(注意) 一つ身三つ身何れも前身頃衿付のところで裁目なれば單衣の時に限り袋縫になすは正しき法なれどすべて子供服は成るべく前幅衿幅等のひろき方着易ければ大抵の時は其裁目を小さくからげ置き別に袋縫になさずともよろしからん。

右は三つ身服普通の裁縫なれど其用布兩面物ならざる時は片身頃は裏となるが故にもし片面物なるときは必ず他の裁方によるべし左に片面物を以

て三つ身相當服の裁方一二を示さん  
幅一尺一寸長さ一丈四尺の片面物を以て三つ身服の裁方

一、裁方の圖

衿	身後	身前	袖	袖
	身後	前身		

二、裁切の寸法

- 袖丈 一尺五寸
- 袖幅 八寸五分
- 衿幅 二寸五分
- 身丈 二尺六寸六分餘
- 後幅 六寸三分
- 前幅 四寸七分
- 衿幅 四寸七分
- 衿肩 一寸六分

幅一尺九寸長さ六尺八寸の片面物を以て三つ身相當服の裁方(但し袖は筒袖とす)

右二つとも縫印付け方、縫方等は普通の三つ身と同様なれば略す

年ごとに遇ふとはすれど七夕の  
れる夜の數ぞすくなかりける

衿 共		衿	
袖	袖	衿	衿
		後身	前身
袖	袖	衿肩	前身

一、裁切の寸法

袖丈 七寸

袖幅 八寸二分五厘

身丈 二尺七分

身幅 一尺三分

衿幅 二寸五分

衿幅 三寸五分

衿肩 一寸六分

考へもの 二題!!!

いつも考へものは御子供がたの御慰みばかりであるので、今度は阿母さんがたや姉さん方の御慰みに

一、私の家とすぐとなりあつて居る家には、阿母さんと十一二歳ばかりの男子が一人ありますが、或る日私が椽側に居りますと、隣りの家ではがた／＼どん／＼音がしますから、はてなと見てゐますと、其の中に男の子がはだして井戸端にかけ出でますと、後から焼へさしの薪が一本つゝいて來ました。

どういふわけでしょう?

二、或人の話に、其人が友人の家を訪ねますと、友人の家の兒大凡七八歳ばかりならんが、駈け出

て來り訪問者の顔を見るや否や聲高に「阿母さん  
また來ましたよ來てもよいのにねー」と申しまし  
たので、友人は恍然として歸つたと申します。

誰が子供にそんな事を教へましたらう？

或母の日記 (第二回)

無名氏

生後四五ヶ月間の記事

(即ち三十四年一月より三月に至る)

現今周囲の状況

住所 海岸小都會を距つる凡一里の田舎にして

積雪の中に埋もる住居は借宅にして宅に

は老婆一人なり

交際 前に述べたる如き田舎にして殊に積雪の

時節なるを以て日常他と交際する事至て  
少したゞ一夜隔て、入湯に行く某家の家  
族のみ

滿三ヶ月頃よりして分らぬ言葉にて人に話する事  
を始めしがしばらく中絶し又十五週頃よく頻りに  
話をなせり朝未明に父母に先ちて目を醒まし安眠  
を妨ぐる少なからざりき

因に云ふ十五週とは生後第十五週の意なり以  
下之に同じ

第十八週頃より耳さとくなり少しのせきばらいに  
驚きて泣く其頃より赤き色を見て喜こぶやうなり  
又しきりに手を吸はんとせり

第二十週迄は手に物を握らするときは厭やがりて  
泣きしが其頃より柔かなるものを握り放さるに  
至れりそれより五六日を経て夜枕紙をさきて口に